

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 < Plan >		担当課		課長名	記入者
		学校教育		松本寿朗	松本寿朗
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度	
スクールアシスタントの配置		新規	年度	年度	
		継続	H19以前	未定	
事務事業の体系					
計画掲載	(章)	2笑顔でつむ、あったかいまち		(節)	1のびのび育とう、育てよう
	(基本計画)	学校教育の充実			
個別計画					
根拠法令・条例・要綱等			事業区分 (該当する区分に「○」)		
発達障がい者支援法			○ ソフト事業	施設の維持管理	
			義務的的事业	内部管理事務	
事務事業の具体的内容			建設・整備事業	計画などの策定	
ADHD (注意欠陥多動性障害) 等の発達障がいにより行動面で著しい不変定な児童やその児童が在籍する普通学級への支援の他、暴力行為等の問題行動や不登校等に対応する要員 (名称: スクールアシスタント) を小学校に配置し、児童1人ひとりの実態に応じた効果的な指導・支援のための補助活動を行うとともに、学校・学級運営の円滑な支援に努め、これらの課題解決に資する			補助金の支給	有	無
			委託	全部委託	一部委託
			○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 < Plan >		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
発達障がいのある児童	発達障がいのある児童	支援を必要とする児童一人ひとりの実態に応じた支援を行うとともに、学級運営の円滑化・安定化を図る。

3 事務事業にかかる予算細目 < Plan >				会計名		一般		会計						
細目名	小学校費教育振興費			細目名				細目名						
予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節
	10	2	2	7										

4 事務事業実施にかかるコスト < Do >						
事務事業・人員		単位	19年度決算	20年度見込	21年度計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			12,000	12,000	15,600	
コストの内訳	直接事業費	千円	12,000	12,000	15,600	
	所属内間接費					
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	0.30	0.30	
財源内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		12,000	12,000	15,600	

5 事務事業の手段 < Plan > と活動指標 < Do >							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度実績	20年度実績	21年度目標
1	発達障害のある児童の学習・活動・生活上の支援・補助	学習活動、学校生活、学校行事等における対象児童への補助・支援対応	かかわれる時間	時間	1386時間	1386時間	1386時間
2	配置人数		支援員数	人	8	10	12
3							
4							
5							

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 <Do>		事務事業名 [スクールアシスタントの配置]			
成果指標(意図の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21 年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
支援を必要とする児童にかかわれる時間	時間	1386時間	1386時間	1386時間	配置必要人数の充実
配置人数	人	8	10	12	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない		把握なし	人材の確保		
		緊急性は	○ 高い	高くない					
		利用者・対象者数は	○ 増加	減少		横ばい			
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	ない	○ ある		把握なし			
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	ある					
		国や県の事業(サービス)との重複は	○ ない	ある					
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	ない	○ ある					
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	ない	○ ある					
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	ない	○ ある		把握なし			
		他課で類似の事業は	○ ない	ある					
	連携の可能性	他の事業と統合できる可能性は	○ ない	ある		あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	ない	○ ある		あるが困難			
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	ない	○ ある		あるが困難			
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	ない	○ ある					
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	ない	○ ある					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	ない	○ ある					
		受益者負担を見直す余地は	ない	○ ある					
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで	ある	○ ない					
		前年より成果が上がって	○ いる	いない		横ばい			
	持続の可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない					
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	いない		測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない					
市場化の可能性		既に全部委託済	更なる委託化が可能である		○ 委託化の余地があり	委託化は不可能			
		市場化テストの導入について検討する余地がある			○ 市場化テストの導入を検討する余地はない				
改善の可能性			1.改善の余地はない			○ 2.改善の余地がややある			
			3.改善の余地が多い			4.抜本的な見直しが必要			

8 改善提案と今後の改善の方向性 < Action >										
職場からの意見					今後の具体的な取り組み					
(施策を取り巻く環境) 普通学級で学ばせたい希望の強い保護者が多く、受け入れのための環境整備が欠かせない。					(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 学級が円滑に、安全に学習の場、集団生活の場としての機能するための条件整備・環境整備の充実を図るためにも本事業の拡充が必要である。					
(課題の解決についての提案など) 落ち着きがない、多動である、自制がきかないなどの発達障がいのある子どもたちが増えてきている状況の中で、早期に、低学年の時から適切な支援をすることが強く望まれる。					自己評価		4(目標以上に達成されている)			
今後の方向性	○	1.重点的に継続			2.現状のまま継続			3.内容を見直しながら継続		4.縮小を検討
		5.統合・連携を検討			6.休止・廃止を検討			7.終了・完了		